

●小さくても大切なこと●

ー 鹿児島県国際交流員 キム・ヒョジン(韓国出身)

10月30日、かごしま国際交流センターでは、新入外国人の交流会「ハーティーパーティー」が開かれました。ハーティーパーティーとは、新しく鹿児島市に来た外国人の方を歓迎するとともに、交流を通してつながりや文化の理解を深めるイベントのことです。ここでは、色々な国の文化を紹介する外国文化ブースや、日本のあそび・和服着付けなどの日本文化ブースが設置しており、在住外国人と日本の方が交流を図ることができます。

私は、今年も、鹿児島市の韓国国際交流員と2人で、韓国文化ブースを設置し、韓国の伝統遊び体験を行いました。韓国の伝統遊びの定番とも言える、トゥホ(投壺、離れた場所から矢を投げ、壺の中に入れる遊び)、ユンノリ(日本のすごろくのような遊びで、サイコロの代わりに「ユツ」という4本の木の棒を投げる遊び)、タッチチギ(メンコ打ち)、チエギチャギ(小銭を紙で巻いて作った「チエギ」を地面に落とさないように蹴る遊び)等を体験するために、多くの参加者の方が訪れました。

韓国文化ブースには、韓国文化に接したことのない方や、韓国ドラマにハマり韓国語を勉強している方、K-POPアイドルグループのファンの方など、様々な方々が訪れ、楽しい交流ができました。そして、参加者の年齢も様々で、小学生から大学生、子ども連れ家族まで、幅広い年齢の方々とも交流ができました。

中には、お母さんと参加した日本の児童もいましたが、この児童は、前から韓国に興味があり、今回のイベントでも韓国の伝統遊びに興味を示してくれていました。私の説明に丁寧に耳を傾けてくれたり、本気で体験してくれたりしました。私は、児童の韓国文化への純粋な心をありがたく感じ、隣で見守っていたお母さんともいろいろな話を交わしました。お母さんは「私は、海外での経験があり、それは、私にとって貴重な経験となった。子どもにも、色々な国の文化に接してほしい」と言っていました。

その時の交わした言葉がきっかけとなり、鹿児島市の国際交流員と一緒に食事に誘われました。私たちは、児童に素敵な思い出を贈りたいと思い、前もってお母さんに児童の好きなものを教えてもらったり、韓国のおやつや、一緒に遊べるゲーム機などを用意したりしました。

当日、私たちは、わくわくしながらご自宅に伺いました。お母さんと児童は、私たちを笑顔で迎えてくれました。あたたかい雰囲気の家の中に入ると、壁一面に世界地図やアルファベット表などがたくさん貼られており、いつかこの壁にハングル表も貼ってもらいたいなと思いました。私たちは、早速お母さんが用意してくれた手巻き寿司を美味しく食べました。食事





のときは、韓国の旅行準備や給食、道路標識などのいろいろな話で盛り上がり、その後は、一緒に焼きマシュマロを食べながらゲームをしたり、日韓の共働きや子育てなどの現実的な話も交わしたりしました。会話に夢中になったのか、いつの間にか帰る時間となり、残念な気持ちでいっぱいになりましたが、また会える日を楽しみにしながらご自宅を後にしました。

お母さんと児童には、素敵な思い出を作ってくれたことをありがたく思いつつ、また機会があればお会いしたいと思います！

今回の出会いは、私に草の根交流の大切さを改めて考えさせてくれました。偶然から始まった出合いが、お互いの理解を深める、ひいては、未来世代の交流にもつながると信じています。一人ひとりの交流だけでは、何も変わらない

と思われるかもしれませんが、小さくても大切なこと、まずその一歩を踏み出すのはいかがでしょうか。